

azbilグループ SDGsサプライチェーン 活動報告書 2021

2022年6月発行



© Azbil Corporation. All rights reserved.



目次

1. はじめに

2. azbilグループ SDGsサプライチェーンの枠組み

2-1. 目標達成に向けた枠組み

2-2. 具体策詳細

A) 対象領域

B) 推進体制 整備

C) サプライチェーン 改善サイクル

D) 評価

3. 2021年度 実施状況

3-1. 購買基本方針 改定

※2-2 C)に対応

3-2. azbilグループにおける推進体制 整備

※2-2 B)に対応

3-3. サプライチェーンへの働きかけ施策

※2-2 C)に対応

3-4. azbilグループ 自己評価

※2-2 D)に対応

3-5. お取引先様 自己評価

※2-2 D)に対応

3-6. azbilグループ 総合評価点

※2-2 D)に対応

3-7. 2021年度 活動を通じて評価できる点と今後の課題



1. はじめに

azbilグループは企業理念に基づき、事業を通じて持続可能な社会の実現と地球環境の保全に積極的な取組みを進めてきており、日本はもちろんのこと世界的な取組みである「持続可能な開発目標（SDGs）」を含めた取組みを行ってきております。

特に近年では、気候変動への対応は大変重要な課題となっており、azbilグループでも脱炭素化等に向けた取組みを進めております。

気候変動への対応を含むSDGsの取組みは、azbilグループだけでなくサプライチェーン全体で活動することでより大きな成果を上げられるものが大半であることを鑑み、調達活動においては お取引先様と長期にわたる信頼関係を築き、azbilグループ・お取引先様双方の付加価値向上をはかることを基本に、社会から高まる要望を受け止め、より積極的な社会的責任を果たすべく、サプライチェーンの取組みを強化してまいります。



1. はじめに

azbilグループSDGs目標

2020年3月制定

azbilグループは、SDGs達成に貢献するため、4つのSDGs基本目標とターゲットを定めました。事業、企業活動全体で取り組みを進めてまいります。SDGsサプライチェーンの活動は、4つの活動のうちの1つに該当します。



■ 基本目標とターゲット

基本目標		ターゲット	SDGs
I	協創による地球環境とエネルギー課題の解決への貢献	環境・エネルギー	エネルギー課題の解決（脱炭素社会に向けて） - お客様の現場における CO₂ 削減効果 340 万トン / 年 - 事業活動に伴う GHG^{※1} 排出量を 55%削減^{※2} - サプライチェーン全体の GHG 排出量を 20%削減^{※3} 環境課題への貢献（環境統合型経営^{※4}の実現） - 地球環境に配慮した商品・サービスの創出・提供 - 全ての新製品を azbilグループ独自のサステイナブルな設計^{※5}とする - 天然資源^{※6}の有効活用と廃棄物発生量の削減 - 全ての新製品を 100%リサイクル可能な設計^{※7}とする
		新オートメーション	お客様のさらなる安心・快適・達成感の実現に向け、生産空間・居住空間(ビル建物)・生活空間の「データ化」を進め、もの創りや運用状態の「自律化」により、社会が求める時々の課題を解決、付加価値を創出 - 事業環境変化に強いオートメーションの実現 - 内の事業環境変化（設備不調、原材料品質、他）の予測・診断と自律的意思決定・制御 - 外的事業環境変化（自然災害、社会情勢の影響など）の予測・診断と自律的意思決定・制御 - ストレスフリーな職場環境の実現 - データに基づく作業支援による作業ミス低減、計画外作業の低減など - 労働生産性向上となる「快適かつ省エネ」環境の構築 - 多様な働き方に繋がる環境の実現 - 時間や場所に合わせた最適な就労環境の構築 - 年齢や性別、スキルなどによらない就労環境の構築
III	サプライチェーンにおける社会的責任の遂行と地域・社会への貢献	サプライチェーン 社会的責任	お客様、お取引先様と共に社会的責任を果たす（価値共有を目指したアズビル CSR 活動の拡充） - お取引先様と共に、SDGs を共通目的として連携し、サプライチェーンにおける CSR の価値共有を実現 地域活性への貢献 (事業拠点を軸とした社会貢献) - 地域に根差した社会貢献活動をすべての事業所^{※8}において実施し、社員一人ひとりが積極的に参加^{※9}
		健幸経営 学習する企業体	健幸経営（働きがい、健康、ダイバーシティ&インクルージョン）の実現 (柔軟な働き方と総労働時間削減、社員の心身の健康の維持・増進、多様な人材が能力発揮できる場づくり) - azbilグループで働くことに満足している社員 65%以上 2024 年までに女性活躍ポイント^{※10}を 2 倍にする (2017 年比) 学習する企業体の発展・強化 (グローバルに活躍する人材の継続的育成とステークホルダーと共に学ぶ機会の拡大) - 一年間で仕事を通じて成長を実感する社員 65%以上 2024 年までに研鑽機会ポイント^{※11}を 2 倍にする (2012 年比)

※1 温室効果ガス (CO₂ 等) ※2 2017 年基準 ※3 2017 年基準 ※4 脱炭素化・資源循環・生物多様性保全などの幅広い環境活動が統合的に事業に取り込まれた経営
 ※5 地球規模の環境課題（脱炭素化、資源循環、生物多様性保全）解決に貢献する製品の創出・提供を目指す設計
 ※6 天然に存在して、人間の生活や生産活動に利用しうる物質・エネルギーの総称 ※7 BAT (Best Available Technology 経済的及び技術的に実行可能な最も効果的な技術) の範囲
 ※8 国内・海外を含む全事業所 ※9 azbil グループ社員数規模の参加を目指す ※10 女性の役員、役職者、管理職など役割に応じたウエイトをつけて独自に集計したポイント
 ※11 社内外のステークホルダーとともに学ぶ機会（回数および参加人数）を独自に集計したポイント

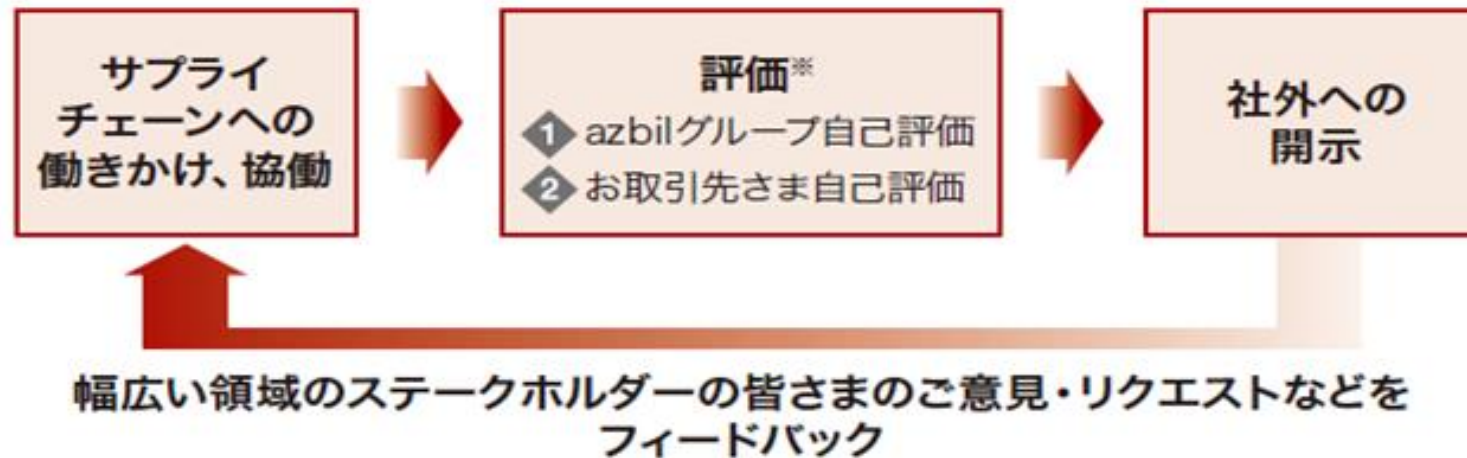


2. azbilグループ SDGsサプライチェーンの枠組み

2-1. 目標達成に向けた枠組み

■ サプライチェーンのCSR活動を評価するazbilグループのPDCAサイクル

お取引先さまとともに、SDGsを共通目的として連携し、
サプライチェーンにおけるCSRの価値共有を実現。



※:

① azbilグループ自己評価

『サプライチェーンへの働きかけ』について、4つの視点(①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策 ④有効性)で、azbilグループでの独自評価基準に基づき、自己評価を実施する。

② お取引先様自己評価

グローバルコンパクトをベースにしたアンケートにより、お取引先様自身の活動を自己評価していただく。



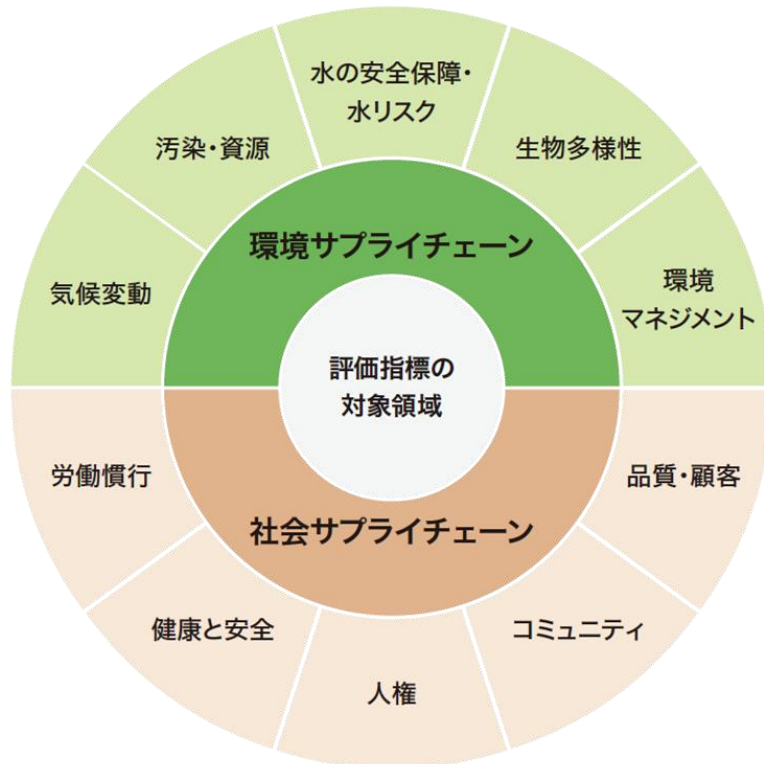
2. azbilグループ SDGsサプライチェーンの枠組み

2-2. 具体策詳細

A) 対象領域

SDGsサプライチェーンで取り組むべき領域を設定し、この領域を対象として、azbilグループの取組み体制整備やお取引先様への働きかけ、azbilグループおよびお取引先様の取組み評価、等を行います。

- 客観性を確保し、社外からも評価・確認しやすいように、対象領域を設定。右表の中分類10項目を「対象テーマ」と呼ぶ。
- 大中分類に紐付ける形で、小分類にazbilグループの取組み施策を配置。



SDGsサプライチェーンで取り組むべき領域

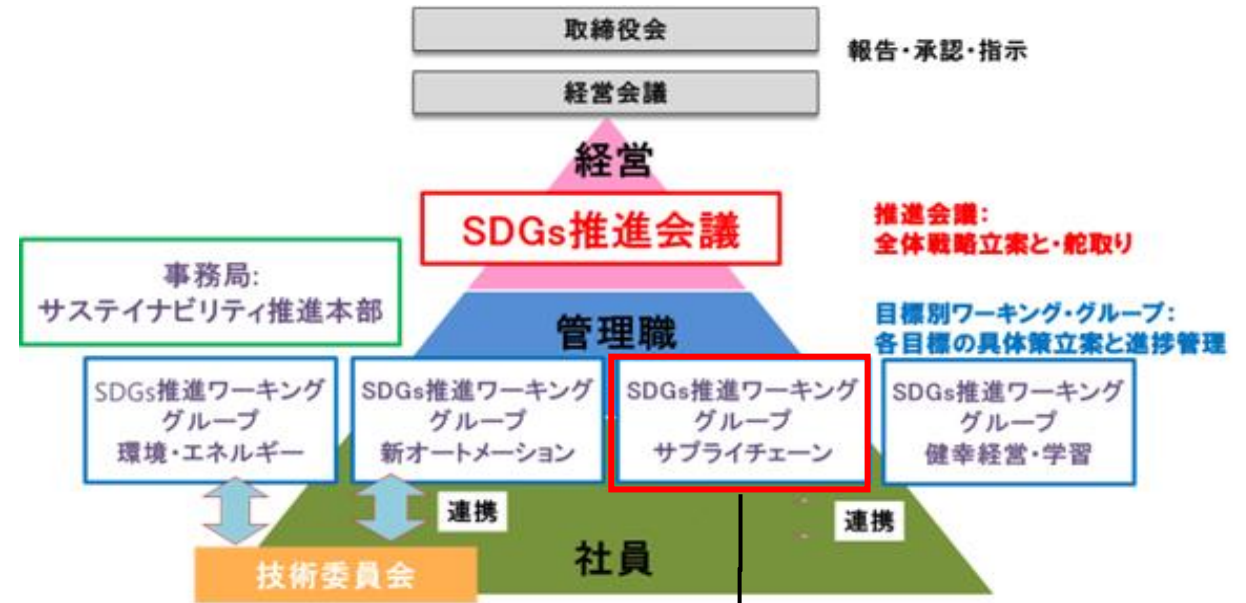
大分類	中分類	小分類
E (環境サプライチェーン)	気候変動 (GHG、エネルギー)	・ CO2/GHG排出を含む気候変動課題への取組み
	汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等)	・ グリーン調達
		・ 製品含有化学物質管理
		・ 資源利用の削減
		・ 産業廃棄物の削減
		・ 資源再利用
S (社会サプライチェーン)	水の安全保障・水リスク	・ 再生エネルギー利用の促進
	生物多様性	・ 水使用の削減、排水削減
	環境マネジメント	・ 生物多様性保全
	労働慣行	・ ISO14001に準拠した環境管理活動
		・ 児童労働、強制労働の廃止、過重労働時間の削減
		・ 差別の禁止、機会均等
	健康と安全	・ ダイバーシティ推進
	人権	・ 健康と安全管理
	コミュニティ (地域社会)	・ 働き方改革、ワークライフバランス
	品質・顧客	・ 基本的人権の尊重 (反社会的勢力の排除、紛争鉱物対応を含む)
		・ 地域振興、社会貢献につながる活動
		・ 公正な商取引の遵守 (法令遵守を含む)
		・ 品質マネジメント



2. azbilグループ SDGsサプライチェーンの枠組み

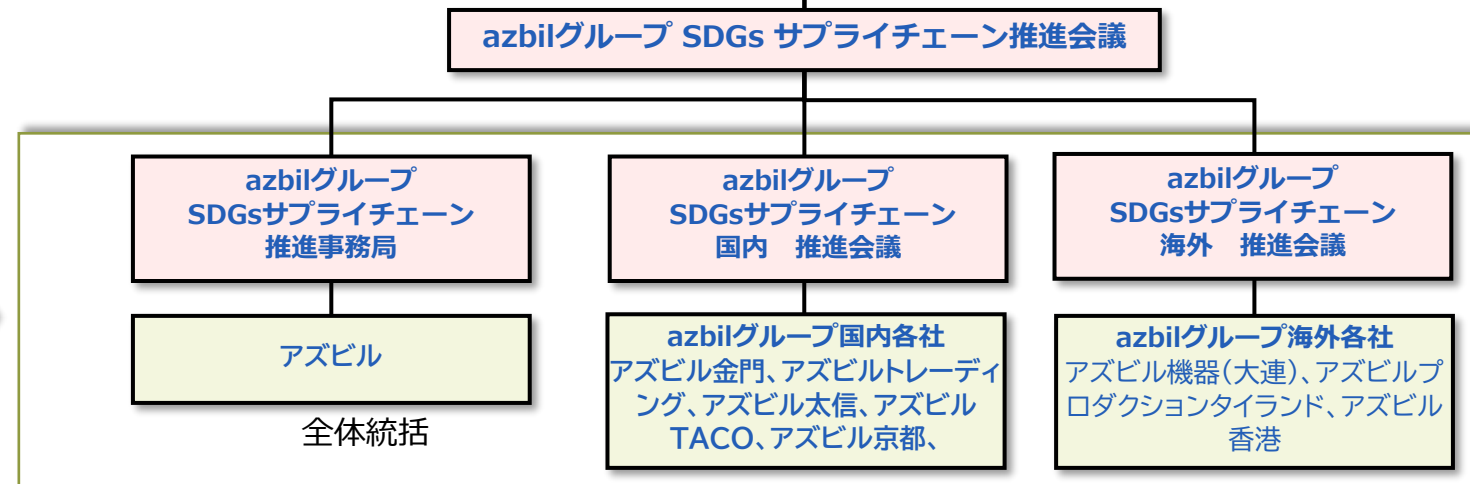
2-2. 具体策詳細 B) 推進体制整備

参画する azbilグループ各社は、対象領域においてお取引先様への働きかけや施策の展開ができる体制を、各社のCSR（SDGs）責任者を中心に、関連機能部門と連携して、適切な形で整備します。なお、必要な体制要件はアズビルから要請し、アズビルが全体を統括します。



アズビルおよびazbilグループ各社は、対象テーマに応じた体制を整備します。

大分類	中分類	推進担当部門
E (環境 サプライ チェーン)	気候変動	環境担当部門
	汚染・資源	
	水の安全保障・水リスク	
	生物多様性	
	環境マネジメント	
S (社会 サプライ チェーン)	労働慣行	人事担当部門
	健康と安全	安全衛生部門
	人権	CSR担当部門、人事担当部門
	コミュニティ	CSR担当部門
	品質・顧客	品質担当部門、購買担当部門

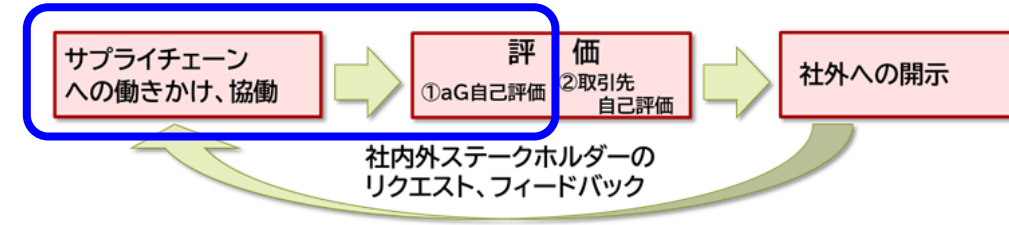




2. azbilグループ SDGsサプライチェーンの枠組み

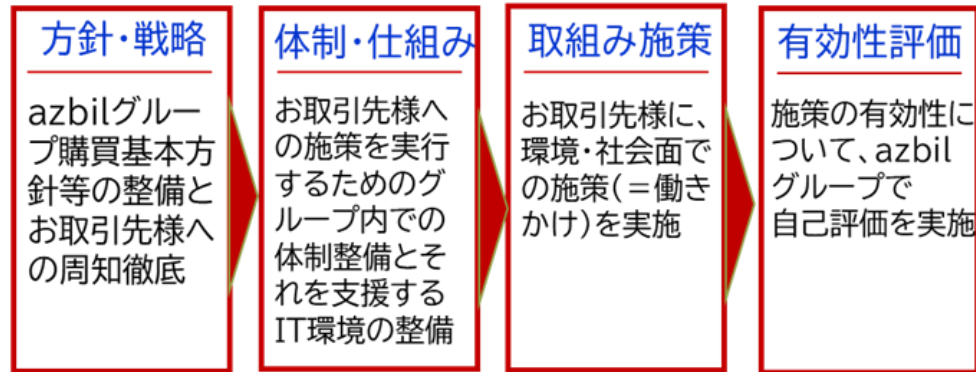
2-2. 具体策詳細 C) サプライチェーン 改善フロー

以下の 4つのアクションに沿った取組みを、お取引先様に展開することで、サプライチェーン全体を環境／社会面で確実に改善していきます。



※図中 aGは、azbilグループの略称を表します。

『 サプライチェーンへの働きかけ 』



※有効性評価の妥当性を検証する意味も含め、お取引先様にも自己評価を実施依頼。

【方針・戦略】

azbilグループとしてのサプライチェーン管理方針（目標、計画を含む）を、azbilグループ購買基本方針として外部開示するとともに、お取引先様にも周知徹底を促します。

【体制・仕組み】

azbilグループ各社で施策を推進する体制や、関係各社での情報共有の仕組みを整備します。

【取組み施策】

azbilグループ各社で、上記方針に基づき、体制・仕組みを活用して自社お取引先様に対し働きかけ（=取組み施策）を実施します。

【有効性評価】

azbilグループ各社が、自社の取組みを評価します。

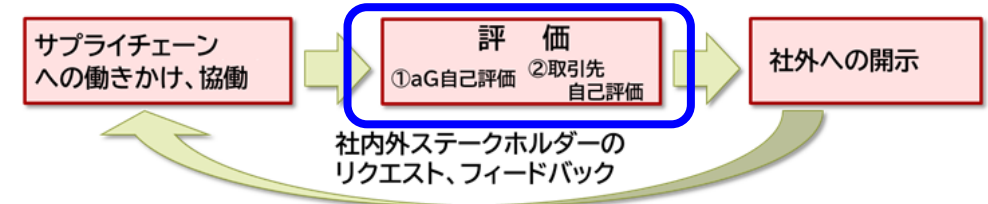


2. azbilグループ SDGsサプライチェーンの枠組み

2-2. 具体策詳細

D) 評価

SDGsサプライチェーン取組みの評価として、azbilグループは『サプライチェーンへの働きかけ』について、4つの視点で自己評価を実施します。これに、お取引先様自己評価(*)を加えた計5項目で総合評価を行います。
⇒ azbilグループの取組みと、お取引先様の強み弱みが見える化し、翌年度施策立案へとつなげます。



※図中 aGは、azbilグループの略称を表します。

* : azbilグループの取組みが有効に機能すれば、経年ではお取引先様での自己評価も向上してくる との仮説に基づき、azbilグループの取組み有効性の検証の意味も含め、お取引先様自己評価結果を評価対象に加えています。

		azbil グループとしてのサプライチェーンへの働きかけの評価				取引先実態把握
大分類	中分類	azbilグループ自己評価				取引先自己評価
		方針・戦略 (目標、計画含む)	体制・仕組み	取組み	有効性 (パフォーマンス)	
E (環境サプライチェーン)	気候変動 (GHG、エネルギー)					
	汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等)					
	水の安全保障・水リスク					
以下、省略						

- ・ 青四角 1 つずつ、10点満点で評価します。
- ・ 2030年までの評価がぶれないように、評価基準を設定しています。



3. 2021年度 実施状況



3-1. 購買基本方針 改定

■概要

SDGs動向や社内外の要請を整理、国連グローバルコンパクト方針も踏まえ「azbilグループ購買基本方針」の改定を実施いたしました。22年6月には改定版を社外にも開示いたしました。

■背景(見直しの必要性)

- ・SDGs視点での社会的要請変化への対応が必要となっていました。
- ・サプライチェーン管理方針として不足する部分を補足追加が必要でした。
- ・azbilグループ行動指針、行動基準との整合性確保も必要でした。

■実現方法

- ・短期的変化の影響を受けない基本的考え方を中心に、社会から求められている見方を意識して重要な項目、表現を絞り込みつつ購買基本方針に取り込み致しました
- ・SDGs取組みとして、お取引先様に取り組んでもらいたい事項はCSR調達ガイドラインとして整備、ホームページにて公開するとともに、順次国内外お取引先様への説明を実施しています。

■主な社内外の要請事項とその対応

- ・社外からの要請としては、サプライチェーン管理方針として追記すべき事項として、気候変動対応、差別の禁止、過度な時間外労働・強制労働の排除、水使用のリスク 等があり、これらを購買基本方針に取り込みました。
- ・アズビルが、2021年4月に署名した国連グローバルコンパクトにおいて重視されている人権についての事項を購買基本方針に取り込みました。
- ・azbilグループとしては、環境配慮設計100%をSDGs目標の1つにしており、お取引先様にもご協力をお願いすべき事項であることから、環境配慮設計を購買基本方針に取り込みました。
- ・環境保護の1つの目標である生物多様性保全を実現するためには、製品含有化学物質管理が重要な手段であることから、製品含有化学物質管理についても、購買基本方針に取り込みました。

※購買基本方針に取り込んだ事項以外にも、詳細な要求事項も含め、CSR調達ガイドラインには全て反映いたしました。



3-2. azbilグループにおける推進体制 整備

広範な10の対象テーマに対し、

- ・azbilグループのお取引先様全体に、幅広く、かつ、効率よくお取引先様に働きかけることができる
 - ・azbilグループ内で、SDGsサプライチェーンのノウハウ・知見を共有でき、水平展開ができる
- ことを狙いとして、2021年は、azbilグループ 9社(国内6社、海外3社)において、体制を整備しました。

大分類	中分類	小分類	サプライチェーン働きかけに必要な機能部門						azbilグループ9社の整備状況	
			購買	環境	人事	安全衛生	品質保証	CSR	体制	仕組み
E (環境サプライチェーン)	気候変動 (GHG、エネルギー)	・CO2/GHG排出を含む気候変動課題への取組み	○	○					○	今後、 情報共有用のITシステム を整備予定
	汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、 廃棄物削減、原材料等)	・グリーン調達 ・製品含有化学物質管理 ・資源利用の削減 ・産業廃棄物の削減 ・資源再利用 ・ 再生エネルギー利用の促進	○	○					○	
	水の安全保障・水リスク	・水使用の削減、排水削減	○	○					○	
	生物多様性	・生物多様性保全	○	○					○	
	環境マネジメント	・ISO14001に準拠した環境管理活動	○	○					○	
S (社会サプライチェーン)	労働慣行	・児童労働、強制労働の廃止、過重労働時間の削減 ・ 差別の禁止、機会均等 ・ダイバーシティ推進	○		○				○	
	健康と安全	・健康と安全管理 ・働き方改革、ワークライフバランス	○		○	○			○	
	人権	・基本的人権の尊重 (反社会的勢力の排除、紛争鉱物対応 を含む)	○		○			○	○	
	コミュニティ (地域社会)	・地域振興、社会貢献につながる活動	○					○	○	
	品質・顧客	・公正な商取引の遵守 (法令遵守を含む)	○						○	
		・品質マネジメント	○				○		○	



3-3. サプライチェーンへの働きかけ施策 CSR調達ガイドライン作成

CSR調達ガイドライン

お取引先様にSDGsの必要性や考え方を認識していただくとともに、具体的にSDGsに取り組んでいただくために、azbilグループとしての理念や企業行動指針に示している基本的な考え方を踏まえ、サプライチェーンにおけるCSRの広範な活動についての方向性、順守すべき事項等をまとめました。

★CSR調達ガイドライン作成のステップ

①グループ理念、上位方針との整合 ②SDGsサプライチェーン 対象領域

azbilグループ理念

azbilグループ企業行動指針
『azbilグループの道標（みちしるべ）～
理念の実践のために』

azbilグループ購買基本方針

③azbilグループ主管部門との協業

社内外の関連規定、規範を参考に、CSR調達ガイドラインを作成

環境テーマ

- azbilグループ環境取組み規定
- RBA行動規範 * 1

社会テーマ

- グローバル・コンパクト
- RBA行動規範 * 1

大分類	中分類	小分類
E (環境 サプライ チェーン)	気候変動 (GHG、エネルギー)	・CO2/GHG排出を含む気候変動課題への取組み ・グリーン調達
	汚染・資源 (大気、排水、有害廃棄物、廃棄物削減、原材料等)	・製品含有化学物質管理 ・資源利用の削減、 ・産業廃棄物の削減 ・資源再利用 ・再生エネルギー利用の促進
	水の安全保障・水リスク	・水使用の削減、排水削減
	生物多様性	・生物多様性保全
	環境マネジメント	・ISO14001に準拠した環境管理活動
S (社会 サプライ チェーン)	労働慣行	・児童労働、強制労働の廃止、 過重労働時間の削減 ・差別の禁止、機会均等 ・ダイバーシティ推進
	健康と安全	・健康と安全管理 ・働き方改革、ワークライフバランス
	人権	・基本的人権の尊重 (反社会的勢力の排除、 紛争鉱物対応を含む)
	コミュニティ (地域社会)	・地域振興、社会貢献につながる活動
	品質・顧客	・公正な商取引の遵守 (法令遵守を含む) ・品質マネジメント

CSR調達ガイドライン

(2021年度版 22年1月社外開示済)

【azbilグループ CSR調達ガイドライン 目次】

1. はじめに p3
2. azbilグループ企業理念 p4
3. azbilグループ行動指針 p4
4. azbilグループ購買基本方針 p5
5. CSR調達ガイドライン p6～11
 - ① 気候変動 (GHG、エネルギー)
 - ② 汚染・資源
(大気、排水、有害廃棄物、
廃棄物削減、原材料等)
 - ③ 水の安全保障・水リスク
 - ④ 生物多様性
 - ⑤ 環境マネジメント
 - ⑥ 労働慣行
 - ⑦ 健康と安全
 - ⑧ 人権
 - ⑨ コミュニティ (地域社会)
 - ⑩ 品質・顧客
6. 補足説明

■ CSR調達ガイドライン



* 1: 電子機器関連産業のサプライチェーンのための環境・労働・倫理等の規範



参考：購買基本方針、ガイドラインの位置づけ

企業理念、企業行動指針／行動基準に基づき、購買分野においては、基本的な考え方を示した「購買基本方針」と、更に詳細の考え方や手順などは、CSR調達ガイドライン（策定済）や手順書等に階層分けした体系で整備していく。

位置付け

購買基本方針；

CSR調達ガイドライン；

取組み手順書；

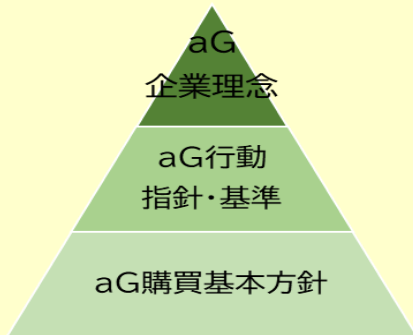
お取引先様との関係構築・購買業務を進める上でのポリシー（①②③）

方針を実践するために取り組むべき事項（②③）（21年11月リリース済）

（必要に応じて今後整備）

【現在】

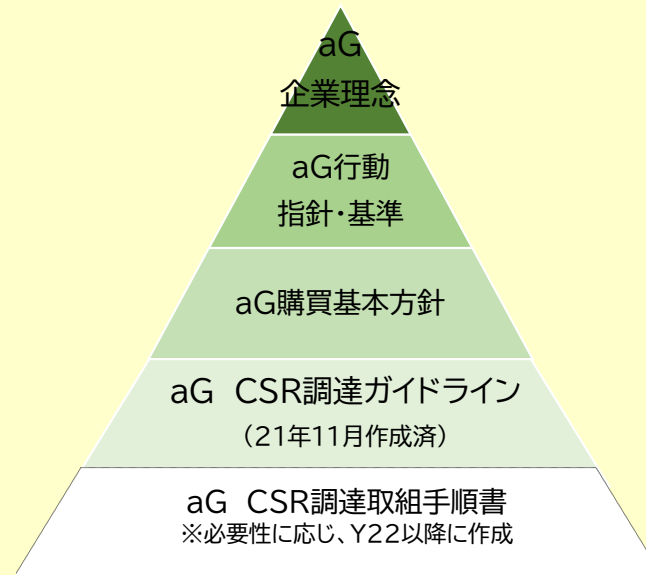
21年4月時点



【狙う姿】

22年6月時点

購買方針・手順 体系



社外開示	① aG社員の 行動規範として	② 取引先の 行動規範として	③ サプライチェーン 管理基準として
済み	○	—	—
済み	○	取引先には、購買基本方針、ガイドラインの参考情報（背景）の位置づけ。	ESG評価の中で、サプライチェーン評価を受けるには、不要
22年6月 開示済	○	○	○
22年1月 開示済	—	○	○
必要に応じ Y22以降に 開示予定	—	○	—

※図中 aGは、azbilグループの略称を表します。



3-3. サプライチェーンへの働きかけ施策 CSR調達ガイドライン お取引先様説明会 実施

■ CSR調達ガイドライン お取引先様説明会

- お取引先様へのSDGs取組みの動機づけと、具体的な取組み事項を理解していただくために、アズビルのSDGs取組みや「CSR調達ガイドライン」についてリモート説明会を4回実施しました。（2021年12月）アズビルの対象のお取引先様 313社のうち、276社（88%）にご参加いただきました。
- アズビル社外向けホームページに「azbilグループCSR調達ガイドライン」を 2022年1月に公開しました。

以下、説明資料の抜粋

<開催日>

2021年12月

日程①： 2日（木）

日程②： 7日（火）

日程③： 13日（月）

日程④： 15日（水）

延べ参加者数 約410名

<説明内容>

- ・ SDGs動向
- ・ アズビルのSDGs取組み
- ・ CSR調達ガイドライン説明（全90分）



© Azbil Corporation. All rights reserved.

関係者外秘

2. SDGs 動向について

1, SDGs 目標 (1)

目標	SDGs
新オートメーション	SDG 8: 持続可能な成長（経済発展を促す）
環境・エネルギー	SDG 13: 気候変動への対応、SDG 7: 再生可能エネルギー、SDG 11: 持続可能な都市とコミュニティ
健康経営	SDG 3: 健康と福祉
サプライチェーン	SDG 12: 持続可能な消費と生産、SDG 15: 陸の豊かさを守ろう

© Azbil Corporation. All rights reserved.

関係者外秘

3, アズビルのSDGs 取組について

3, お取引先様とのエンゲージメントを推し進めるため。

CSR調達ガイドラインを制定しました。

azbilグループとしての理念や企業行動指針に示している基本的な考え方を踏まえ、サプライチェーンにおけるCSRの広範な活動について、順守すべき事項等をまとめました。

お取引先様と今後のお取引を長く円滑に実施する為に「アズビルグループCSR調達ガイドライン」をご理解頂き協力をお願い致します。

大分類	中分類	小分類
E (環境・エネルギー)	気候変動	GHG排出量を削減するための取り組み
	資源・エネルギー	再生可能エネルギーの活用
	廃棄物	廃棄物の削減、資源の有効活用
	水	水の消費削減、水質の保全
S (社会)	労働環境	労働者の権利の尊重、労働環境の改善
	人権	人権の尊重、人権侵害の防止
	地域社会	地域社会との連携、社会貢献
	その他	その他CSR活動

CSR調達の取組対象領域について、アズビルの考えを記載しています。

CSR調達ガイドライン（一部抜粋）

- 気候変動 (GHG: 温室効果ガス、エネルギー)
- 労働環境 (労働者の権利、労働環境)
- 人権
- 地域社会
- その他

© Azbil Corporation. All rights reserved.

1. 気候変動 (GHG: 温室効果ガス、エネルギー)

➢ エネルギー効率改善に努め、エネルギーの消費量および温室効果ガス排出量の継続的な削減活動を実施する必要があります。

➢ 再生可能エネルギーの活用（再生可能エネルギー由来電力の購入、太陽光発電の導入など）に取り組むことが求められます。

➢ 製造工程で発生する温室効果ガスに対して、自主的な削減目標を設定し、計画を立案し、継続的な削減活動を行う必要があります。

- 温室効果ガスには様々なものがありますが、特に京都議定書で定められた二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、HFC（ハイドロフルオロカーボン類）、PFC（パーフルオロカーボン類）、SF6（六フッ化硫黄）の6種類の物質群を指します。
- 継続的な削減活動には、6種類の温室効果ガスに対して、自主的な削減目標を設定し、計画を立案し、確実に実行することが求められます。

© Azbil Corporation. All rights reserved.

6. 労働慣行

6.1 労働者の採用と雇用

➢ 強制、拘束、非人道的な労働によって得られた労働力を用いることはできません。

➢ 雇用する際は、労働者が理解できる言語で雇用条件等を提示する必要があります。

➢ 就業を強制することなく、労働者の離職や雇用を自ら終了する権利を尊重する必要があります。

- 脅迫、強制、拉致または詐欺によって、人を移送、隠匿、採用、譲渡、受け入れることを禁止します。あわせて、就労のための手数料を労働者から搾取することも強制労働につながる可能性があります。
- また、その手数料を債務として強制労働を行うことも禁止されます。
- 特に、外国人労働者を含む移民労働者の強制労働が数多く報告されています。外国人労働者の雇用にあたっては、労働者が母国を離れる前に、雇用条件を労働者が理解できる言語で記載した雇用契約書を提示する必要があります。
- なお、政府発行の身分証明書、パスポート・ビザ、労働許可書または移民申請書（労働者以外によるこれらの保持を法令で義務付けている場合を除く）などを労働者から隠匿、没収するなどの手段で本人の使用を妨げること、労働者の施設への出入りや施設内の移動に不合理な制約を課すことも、強制労働につながる行為です。

© Azbil Corporation. All rights reserved.

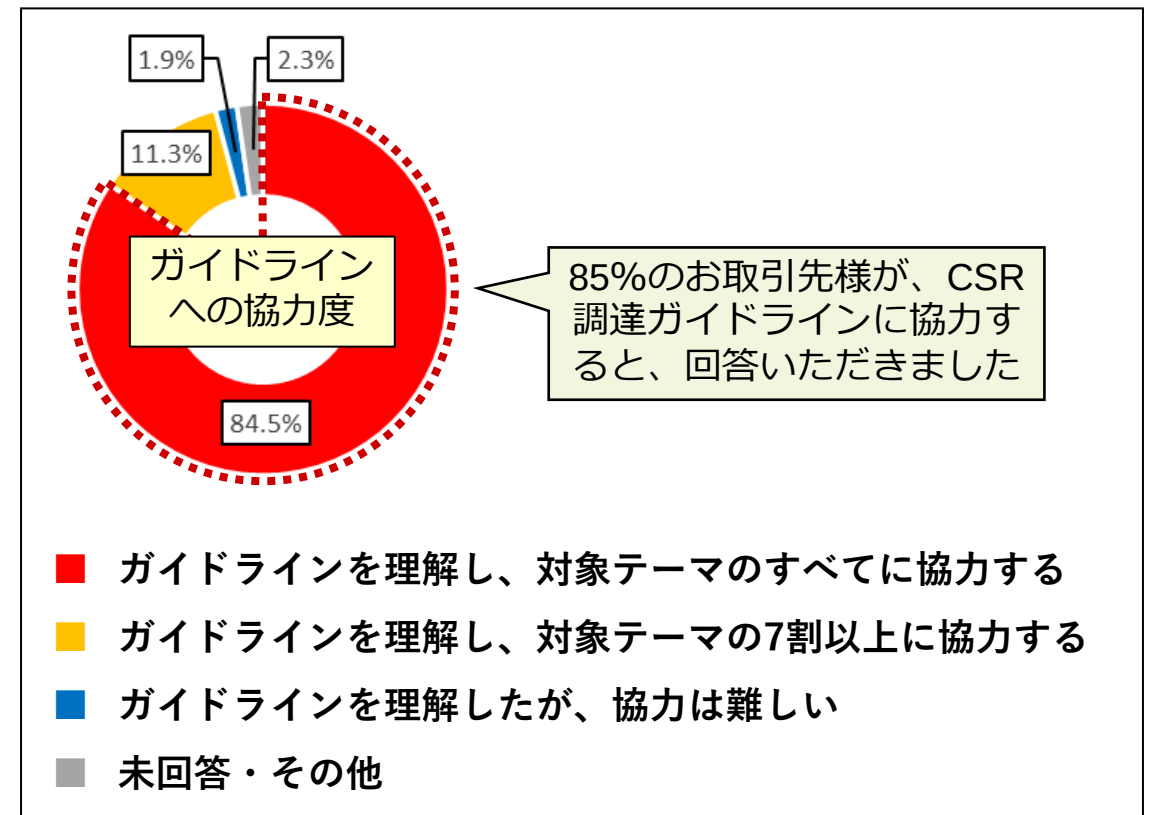
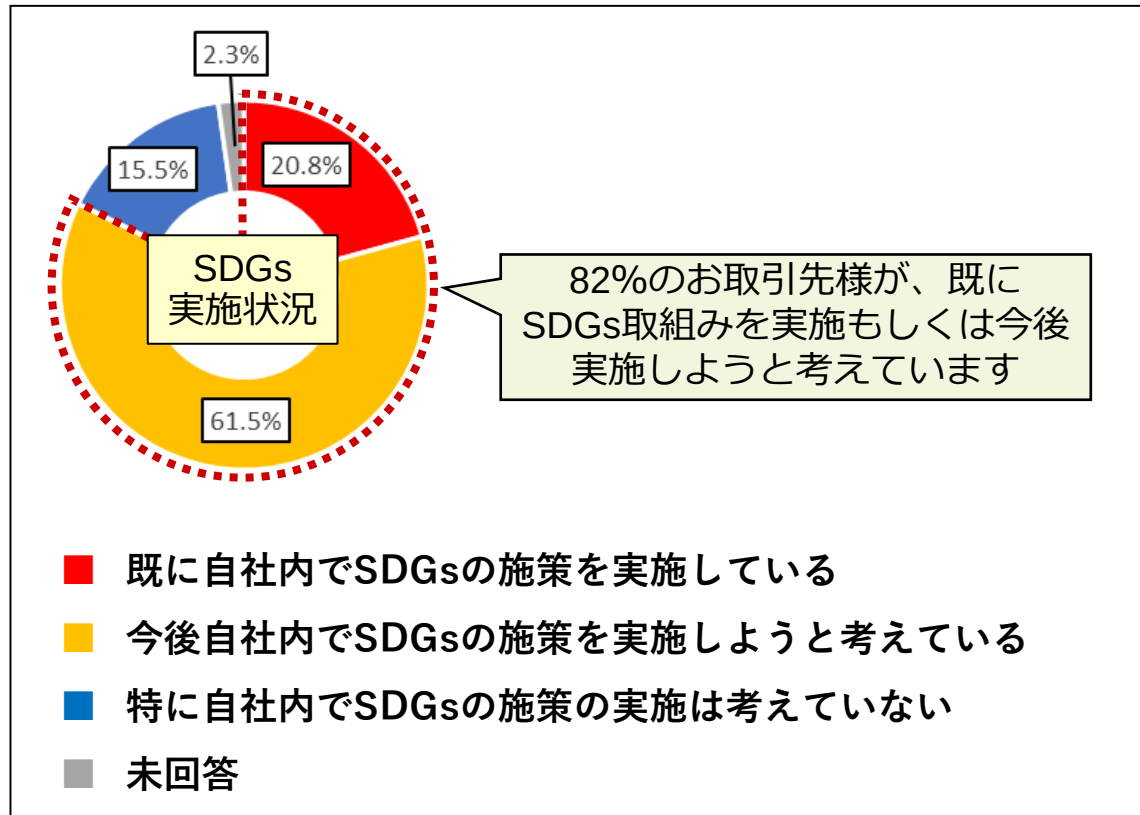


3-3. サプライチェーンへの働きかけ施策

CSR調達ガイドライン お取引先様説明会 実施

■ CSR調達ガイドライン お取引先様説明会 開催後のアンケート集計結果

- 参加した276社中、265社（96%）からアンケート回答をいただきました。
- 主な質問事項：自社でのSDGsの実施状況、CSR調達ガイドラインへの協力度など。





3-4. azbilグループ自己評価

■ 1.azbilグループ自己評価基準

azbilグループ SDGsサプライチェーンへの働きかけ(①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策)および、④その有効性評価の4つの視点で、下記の狙う状態を定義し、達成度合いを10点満点で評価いたします。

	狙う状態	得点の要素
方針・戦略	・SDGsサプライチェーンの取組み方針や目標・計画が、azbilグループ全体の方針として明文化されている状態。 ・海外に対しても(英語等で)開示されるとともに、取引先に周知されている状態。	以下のステータスにより、加点。 方針体系整理 / 方針策定 / 社内承認 / 社外開示 / 取組計画・内容の明確化
体制・仕組み	「方針・戦略」に基づき、azbilグループでの取組み体制(主幹部門)や仕組みが、サプライチェーン全体に対し、有効に機能するように網羅されている状態。	以下の整備状況により、加点。 ・azbilグループ各社でのSDGsサプライチェーン推進体制 整備状況 ・azbilグループ／お取引先様 間での情報共有インフラとしてのITシステム整備状況
取組み施策	「方針・戦略」、「体制・仕組み」に基づいた、お取引先様への働きかけ施策が、お取引先様と共有されており、その施策が、サプライチェーンの中で、実施されている状態。	以下の2つの要素の組み合わせにより、加点。 ・施策の位置づけ (SDGs動機付け / 活動内容具体化支援 / お取引先様PDCA支援 等) ・施策が実施されたお取引先様のカバー率
有効性	「取組み施策」が有効に機能し、期待した効果が得られている状態。	「取組み施策」に対し、有効と判断できる率により、加点。



3-4. azbilグループ自己評価

■ 2.2021年度 自己評価点

※評価点は10点満点

	評価点	評価点 補足説明
方針・戦略	評価点 3.0点 ※対象テーマによらず、同一得点。	・P14にあるように、azbilグループ企業理念から購買基本方針、CSR調達ガイドラインまでの位置づけの整理を完了した。 ・P11にあるように、SDGs動向や社内外の要請を、azbilグループ購買基本方針に反映を完了した。
体制・仕組み	評価点 2.9～3.2点。 ※対象テーマごとに、評価点が変わる	・P12にあるように、azbilグループ 9社(国内6社、海外3社)において、SDGsサプライチェーン推進体制の整備を概ね完了した。 ※対象テーマにより、参画が必要な機能部門が異なっている。 - その参画度合いにより、対象テーマごとに評価点に差異が発生している。 ※azbilグループ／お取引先様 間での情報共有インフラとしてのITシステムは現在構築中。
取組み施策	評価点 2.0点 ※対象テーマによらず、同一得点。	2021年度施策 :CSR調達ガイドライン説明会開催 ※施策 位置付け:お取引先様の動機付け、活動内容具体化支援 CSR調達ガイドライン説明会参加率(*) × (施策位置づけによる重み付け) = 評価点2.0点 ※説明会を全ての対象テーマについて実施したため対象テーマによる差は無い。 *: azbilグループお取引先様558社中、アズビルのお取引先様276社参加。
有効性	評価点 1.9～2.0点 ※対象テーマごとに、評価点が変わる	対象テーマごとのCSR調達ガイドラインへの賛同率 × 取組み施策 評価点 = 評価点1.9～2点



3-5. お取引先様自己評価

お取引先様が、自社内でSDGsの取組みや改善活動を継続的に実施され、その取組み成果をサプライチェーン全体や社会と共有できることを狙う状態と考え、グローバル・コンパクト「セルフ・アセスメント・ツール」をもとにアンケートを作成し、お取引先様各社の自己評価を実施しました。

■ azbilグループ 国内6社 お取引先様自己評価アンケート実施社数

azbilグループ 主管会社	アンケート依頼	アンケート回収	数字:お取引先様 社数			
			お取引先様 業種・業態			
			製造	商社	工事・役務	エンジニアリング・ ソフト開発
アズビル	313	275	80	40	142	13
アズビル金門	77	68	43	16	6	3
アズビルトレーディング	37	30	22	6	2	0
アズビル太信	29	29	14	15	0	0
アズビルTACO	53	51	41	9	1	0
アズビル京都	4	4	0	4	0	0
合計	513	457	200	90	151	16

■ azbilグループ海外3社 お取引先様自己評価アンケート実施社数

azbilグループ 主管会社	アンケート依頼	アンケート回収	数字:お取引先様 社数			
			お取引先様 業種・業態			
			製造	商社	工事・役務	エンジニアリング・ ソフト開発
アズビル機器(大連)	24	24	17	7	0	0
アズビルプロダクション タイランド	11	11	6	5	0	0
アズビル香港	10	10	7	3	0	0
合計	45	45	30	15	0	0



3-5. お取引先様自己評価

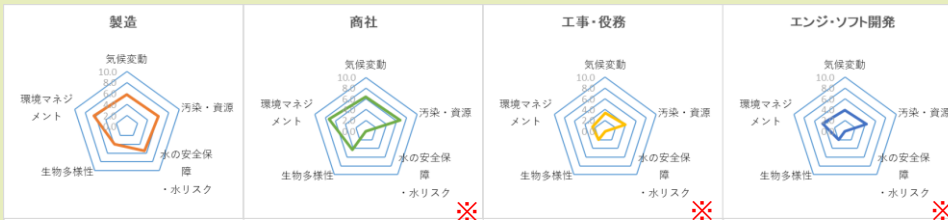
■ azbilグループ国内・海外 お取引先様自己評価集計結果 主要テーマ（10項目）

- 製造業は、他の業態・業種よりも環境対応の評価点は高い。工事・役務は、環境、社会とも対応の評価点が低い。
- 海外お取引先様は、国内より評価点数が総じて2点ほど高くなっています。

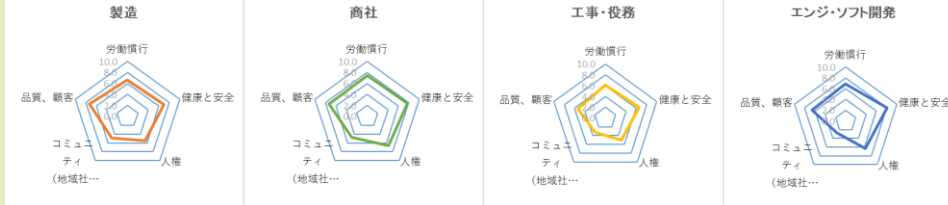
国内6社



環境



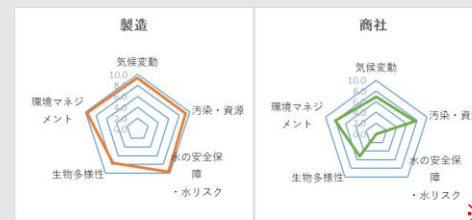
社会



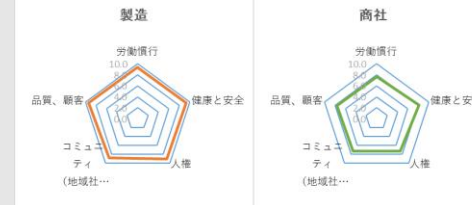
海外3社



環境



社会





3-5. お取引先様自己評価

■ azbilグループ国内・海外 お取引先様自己評価集計結果 主要テーマ小分類（22項目）

- 評価順位は、国内、海外ともほぼ同じ評価の傾向を示します。
- 地域振興・社会貢献、生物多様性保全などの取組みが低くなっています。
- 海外は総じて評価点が高く、評価の格差がほとんど見られません。
- 会社規模（資本金）が大きいほど取組みが進んでいます。

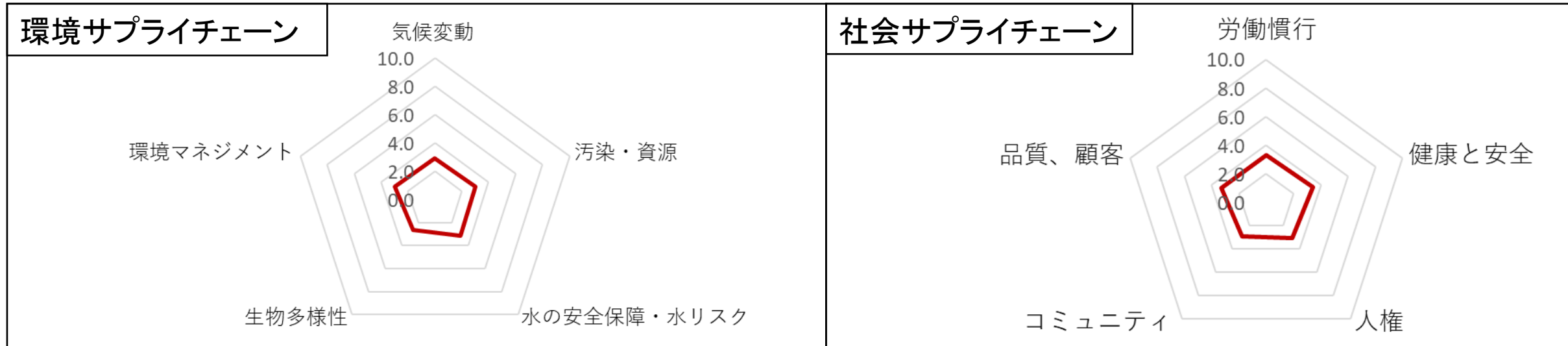




3-6. azbilグループ 総合評価点

■ 総合評価

環境5、社会5の計10の主要テーマについて、azbilグループ SDGsサプライチェーンへの働きかけ（①方針・戦略 ②体制・仕組み ③取組み施策）および、④その有効性評価と、⑤お取引先様自己評価結果 の5つの評価項目での単純平均点を総合評価点とし、10点満点で評価いたします。



※2021年度は、azbilグループのサプライチェーンへの働きかけが、購買方針改定、CSR調達ガイドライン作成とその説明会実施と、10テーマ全て共通で実施したので、テーマ別の得点に大きな差異はありません。



3-7. 2021年度 活動を通じて評価できる点と今後の課題

■ 2021年度 活動を通じて評価できる点

- ✓ CSR調達ガイドライン 説明会を実施したことで、サプライチェーン全体にSDGsへの動機付け（取組み意識の醸成）ができ、アズビルのSDGsへの取組みにも理解と賛同が得られることを確認できました。
- ✓ 期首に設定した目標達成に向けた枠組みに則り、PDCAサイクルを回していくことで、サプライチェーン全体を継続的に改善していくことができることも確認できました。
- ✓ 今回の取組みを機会に、SDGs達成に貢献すべく、azbilグループ一丸となった体制整備を進めることができました。

■ 今後の課題

- 2021年度はお取引先様への動機付けを主目的に設定したため、説明会という形態を採用しました。今後はより実効性を高めるために、社会要請の高い気候変動対応や人権保護をとりあげ、より具体的な施策を企画し、お取引先様に働きかけ、協働していきます。
- CSR調達ガイドラインの説明がアズビルのお取引先様のみになっているので、Y22にはazbilグループ各社のお取引先様にも、CSR調達ガイドラインの説明会を実施していく計画です。
- azbilグループ内の人的体制整備は進みましたが、ITインフラの整備があまり進んでいません。azbilグループとお取引先様間、お取引先様同士の情報共有インフラとして、ITでの仕組み整備を志向していきます。
- お取引先様自己評価の結果は総合的には低くない状況でしたが、個社ごとにはばらつきがあるため、評価結果をもとに改善点をお取引先様にフィードバックすることで、自主的なレベルアップをお願いしていきます。

azbil